

第4回 近畿圏広域地方計画協議会 議事要旨

日時：平成27年9月16日（水）13：00～14：30

場所：リーガロイヤルホテル 3階 ロイヤルホール

1. 開会 13時00分
2. 挨拶
3. 議事
 - (1) 国土形成計画（全国計画）について
 - (2) 関西広域地方計画中間整理（案）について
 - (3) プロジェクト検討参考資料（プロジェクト骨子（案））について
4. その他

2. 挨拶

【近畿圏広域地方計画協議会会長（関西経済連合会：森会長）】

前回4月の協議会では、近畿圏広域地方計画の骨子案について、皆様に活発にご議論いただいた。また先日、国土形成計画が閣議決定された。本日は、閣議決定の内容や、前回皆様から頂戴したご意見、その後の幹事会、有識者への意見聴取結果を踏まえてとりまとめた次期計画の中間整理（案）とプロジェクト骨子（案）をお示ししている。今回の案では皆様のご意見を踏まえて、計画の名称を「近畿」ではなく「関西広域地方計画」とし、長年の課題である関西ブランドの発信という意味で一歩前進することが出来たと思う。その一方、現段階の案では、リニア中央新幹線や北陸新幹線などについてはまだ踏み込みが足りない点も散見される。広域地方計画は、関西の将来を大きく左右する成長戦略でもあるので、ここから更に議論を深めていきたい。今月2日、太田大臣をはじめ国交省の方々と関経連が懇談する機会があり、その場で私からは、関西の計画ではリニア中央新幹線などの重要プロジェクトについて、全国計画を踏まえつつもさらに一歩踏み込んだ内容にしたいと申し上げた。国交省からは、関西を元気にすることが日本の再生につながるというコメントもいただいている。みなさんとともに、本日晒している中間整理（案）とプロジェクト骨子（案）に更に磨きをかけて、スーパー・メガリージョンの一翼を担う関西にふさわしい計画を作り上げたいと思うので、よろしくお願いしたい。

【国土交通省：西脇国土交通審議官】

去る８月１４日に「新しい国土形成計画」の全国計画が閣議決定された。この計画は、今後概ね１０年間の国土づくりのあり方を定めるものである。その基本コンセプトは「コンパクト＋ネットワーク」である。それぞれの地域が個性を磨き、異なる個性を持つ各地域が連携する「対流促進型国土」の形成を目指すこととしている。新しい広域地方計画は、この全国計画を基本として、近畿圏における骨太の圏域構造とその実現に向けた具体的な取り組み方針を明らかにしていただくものである。まさに近畿圏における「コンパクト＋ネットワーク」の姿と、「対流促進型国土」の具体的なかたちが見えてくるのが期待されている。近畿圏について若干話をすれば、関西国際空港におけるＬＣＣの拠点化によりアジアからの外国人観光客が急増しており、また北近畿豊岡自動車道や阪和自動車道などの道路ネットワークの整備が推進されることにより、従来は海外からの旅行者があまりみられなかったエリアにもインバウンドの効果が広がっている。また近畿圏に集積している大学や研究開発拠点の連携を深めることによって、健康医療産業等の次世代産業の創出を図るなど、世界を直接見据えた戦略も求められていると聞いている。国土交通省としても、ご出席のみなさんとともに、近畿圏のより具体的な未来を展望した計画づくりに努力するとともに、その実現に向けて関係各機関と連携を図っていく所存である

３．議事

(１) 国土形成計画（全国計画）について

■資料１説明（国土交通省大臣官房審議官）

(２) 関西広域地方計画中間整理（案）について

(３) プロジェクト検討参考資料（プロジェクト骨子（案））について

■資料２・５説明（事務局）

■質疑

【兵庫県】

総じて言えばよくまとめられていると思うが、いくつか提案をさせていただきたい。

- ① コンパクト＋ネットワークの考え方は、全国計画でも閣議決定されている概念であ

るが、ネットワークといっても垂直的ネットワークなのか水平的ネットワークなのかという大きな課題がある。これが垂直的ネットワークを前提としてコンパクト化していくということになると、東京一極集中をさらに助長するピラミッド型構造を日本国土で形成していくという誤解を招く恐れがある。その点については、既にかなり配慮して頂いていると思うが、垂直的ネットワークとコンパクト化というのを前提としないということを徹底していただきたい。

- ② 農林水産業の位置づけが弱いと思われる。関西圏は大都市、中都市、農山村があって、日本海、太平洋、瀬戸内海に面している、いわばミニ日本のような圏域であるが、そのミニ日本の中での農林水産業の位置づけについて、総論のところでの記述が弱いように思われる。成長産業化としてのプロジェクトとしては、ブランド化やグローバルマーケットの開拓、若者や女性の就農促進、都市近郊農業など色々と挙げられるが、その前提としての総論において、産業としての農林水産業の位置づけが必要だと思われる。
- ③ 関西ゲートウェイ＋ネットワークプロジェクトの中で、国土の双眼構造の一翼を担う関西としての役割について、総論のところでも書くべきであり、もっと強調すべきことである。これからの日本を考えた場合、政治・行政・経済の各方面において国土の双眼構造を構築していくことが必要であり、その双眼構造の一翼を担うのが関西であるという具体的な位置づけに基づいた取組が必要である。
- ④ リニア中央新幹線と北陸新幹線については、リニア中央新幹線の大阪までの同時開業や北陸新幹線の大阪までの早期延伸をきちんと触れておく必要があるだろう。これらは国家プロジェクトであり、関西としての明確な意思表示がないのは残念なことなので、国家的見地に立った位置づけをすべきである。
- ⑤ 関西３空港の位置づけについて、現在関空と大阪空港とのコンセッションが行われようとしているところであり、これらを踏まえて神戸空港の活用も図っていくのが望ましい。したがって、成田と羽田の首都圏空港に対抗するハブ空港群としての関西３空港を関西空港群と位置づけて対応を図っていくことが重要である。また、それに関連する道路や鉄道の整備についても触れておく必要がある。
- ⑥ 成長エンジンプロジェクトの関西医療産業について、現在産学官で進めようとしているのは、ＩＣＴやロボット技術を活用した遠隔医療等の新たな医療の確立、認知症や骨粗鬆症を対象とした予防医療や先制医療の取扱い、ＩＣＴ等を活用した高齢者見守りシステム、ロボット技術を活用した介護機器の実用化促進などである。したがって、最先端の技術開発プロジェクトを計画的に取り上げていただきたい。
- ⑦ 都市の魅力向上のところで、光の祭典「大阪・光の饗宴」が挙げられているが、神戸にはルミナリエがあり、その他の都市でも色々なイベントがあるので、もう少し幅広に取り上げていただきたい。
- ⑧ 防災関連機関について、南海トラフ巨大地震等に備えて関西が一丸となって対応し

ていくべきではあるが、関西は今年20年を迎えた阪神淡路大震災を経験しており、そのノウハウや技術力があるので、この点をきちっと位置づけた方がよいのではないか。例えば、人と未来防災センターやWHO神戸センターなど、国内外の防災関係機関や人道支援機関の集積を活かして、防災研究の進展や専門人材の育成等を具体化していったらどうか。

- ⑨ エネルギーについては非常に重要な問題であるため、関西における水素エネルギーやメタンハイドレートに関する取組を計画的に取り上げてはどうか。例えば、水素エネルギーについては、水素関連の研究開発の推進、水素サプライチェーンの構築や需要喚起、関西企業の水素関連産業への参入促進など、少しずつ動きつつあるので、自動車だけではなく、こうした取り組みも幅広く取り上げて、水素社会の実現を目指すという方向付けをしていただきたい。メタンハイドレートについては、日本海周辺での開発が大変注目されている。表層型のメタンハイドレートの厚い層の存在が確認されたので、日本海側での開発を促進させるためにも、実用化に向けた調査研究や掘削・採取技術の開発などを計画に位置付けて、その推進を図るべきである。

なお、お手元に「関西圏域の展望研究」の報告書を配布させて頂いている。これは今回の広域地方計画よりも少し中長期的な方向付けを睨んだ議論をしたもので、関西の知恵を結集した報告なので、ご参考頂けると幸いである。

【事務局】

今のご意見を踏まえて、しっかり検討したい。

【大阪市】

首都機能の関西への分散配置について、本日の計画案に一定反映して頂いたことにお礼を申し上げます。その上で2点申し上げたい。

- ① リニア中央新幹線と北陸新幹線については、森会長や井戸知事と全く同じ意見である。
- ② 高速道路の料金体系のシームレス化について、首都圏に続いて関西圏でも議論を進めると国の方針が示されているため、この計画は今後10年を対象としているため、「検討する」ではなく「実現を図る」とはっきり書いていただきたい。

【大阪府】

計画名称について、近畿圏を関西圏に変更して頂いたことにお礼を申し上げます。

- ① リニア中央新幹線と北陸新幹線については、先ほどから出されているご意見と同じであり、「はじめに」のところでは早期整備と書かれているが、中身のところでは現状の計画を着実に進めるというレベルにとどまっているので、「はじめに」で書かれている内容ぐらいのレベルのことを中身でも書いていただきたい。
- ② 主要プロジェクトについて、今後具体的な事業の記載にあたっては、地方計画であるという意義を踏まえて、事業化に取り組んでいる地元の府県や市町村等と十分に

調整していただきたい。

【関西経済同友会】

4月14日の第3回協議会でも発言させていただきましたけれども、先程からご意見が出されているように、三大都市圏を一体化させるスーパー・メガリージョンの形成に大変重要なリニア中央新幹線の全線同時開業につきまして近畿圏広域地方計画にしっかりと書いていただきたいと思います。また、北陸新幹線の大阪への延伸についても、広域地方計画にしっかりと記載していただきたい。4月14日以降の動きも拝見いたしまして、さらにその思いを強くしております。東京一極集中の是正は8月に閣議決定をいただきました2つの計画でも書いておられますとおり、国の施策として位置づけられており、リニア、北陸新幹線をよろしく願います。もう一つは今後の世界経済とか為替の動きによって変動はありますけども、国内外のビジネス・観光客の動きが活発化している状況である。JNTOの情報によると、平成27年の1月から6月までの半期において、1971年以降45年ぶりに訪日外客数が出国日本人数を上回りました。非常に大きなことだと先般も専門家の方から伺いました。そういう中でより大きな経済効果を国や地方で得るためにも、リニアや北陸新幹線についてしっかりと記述していただきたい。

【奈良県】

- ① リニア中央新幹線については、少なくとも早期整備という言葉はきっちりと記述いただきたい。
- ② 大阪市から意見が出た高速道路の料金体系のシームレス化の問題について、奈良県は高速道路はほとんどないが、この問題は県内でも生じているので、明確にしたい。
- ③ もう一点は、4月の協議会、前回の幹事会でも意見したが、本県は、特に産業の活性化において県外企業の誘致が大きなウエイトを占める。その点で土地利用について、スピードを求めるということを申し上げた。今回の中間整理（案）のP29に「地場産業の競争力強化を図るため、農業振興地域制度及び農地転用許可制度の適切な運用を図ることにより、優良農地の確保と有効利用の取組を推進する」という文言を入れていただいたことについては一定評価をさせて頂くが、地場産業の強化だけでなく県外からの企業誘致を図るための工業ゾーンの創出という観点をもう少し反映していただきたい。

【神戸市】

三ノ宮や医療産業都市なども取り上げていただきまして本当にありがとうございます。井戸知事が大分意見をいっていただきましたが、少しだけ補足をさせていただきたい。

- ① 防災について、阪神淡路大震災の教訓の継承が重要であると認識しており、中間整理においても少し触れて頂いているが、特に地域建設業が持っているノウハウの維持という切り口になっている。防災については、自助、共助、公助というそれぞれの段

階があり、行政は行政で継承し、地域コミュニティもそれぞれで継承していく必要があると思っているので、そうした形の中で震災の教訓をいかにして継承していくかが重要だということを記載していただきたい。それと、教訓を活かしたノウハウと防災機関の集積を活かして世界に貢献していくということを取り上げていただきたい。

- ② 災害対策については、洪水対策や土砂災害対策など色々あって、これらがひとまとめになって重要だということは記載していただいているが、広島例を見ましても土砂災害対策は重要と思っていますので、災害対応は川は川、山は山など、それぞれについての重要性をもう少し強調していただきたい。

【大阪商工会議所】

- ① 健康医療産業を盛り込んでいただいているのはありがたいことですが、アジアのゲートウェイを担い我が国の成長エンジン圏域のところで、グローバルニッチ企業だけでなく、中小企業やベンチャーの振興の必要性を何らかの形で記していただきたい。
- ② リニア中央新幹線については、最低限「早期整備」という文言を盛り込んでいただきたい。北陸新幹線については、金沢までの開業によって関西の危機意識が強まっているので、国土のリダンダンシー確保や関西と北陸の連携強化のためには、大阪までの早期開業が必要であるということを、はっきりと記載していただきたい。

【滋賀県】

- ① プロジェクト一番目の「関西ゲートウェイ＋ネットワークプロジェクト」のところで、一番に出てくる「高規格幹線道路等による道路ネットワーク整備事業」で、新名神高速道路は既に供用開始しているところもあるが、城陽～八幡間と高槻～神戸間が平成28年に開通予定となっているが、大津～城陽間と八幡～高槻間が平成35年開通と聞いており、7年のタイムラグが発生する。ミッシングリンクの早期解消が急務であると認識している。プロジェクトをつくるにあたっては、もう一歩踏み込んだ表現になればいいと思う。ミッシングリンクの解消とか早期構築といった力強い表現にしていただけたらありがたい。
- ② 最後の「環境共生プロジェクト」のところで、滋賀県は琵琶湖を抱えており、健全な流域圏と生態系の保全・再生ということで意見を反映していただいて感謝している。国家的な資産である琵琶湖を健全で恵み深い豊かな湖として将来にわたって引き継いでいくことは、近畿圏における住民の生活環境の保持や、近畿圏の健全な発展に寄与することから、今後主要プロジェクトを検討するにあたっては、是非とも琵琶湖の保全と再生に向けて流域が一体となった取り組みを一層推進するよう、とりまとめていただきたい。

【京都府】

- ① エネルギー戦略の関係について、資料3 P39に該当するが、国土形成計画には再生可能エネルギーとか省エネとかかなり詳細に記載されているので、これと平仄をと

る意味でも、例えば安定的なエネルギー供給の実現ということで、P34 に記載がされておりますが、LNGの受け入れ基地と輸送路およびパイプラインの整備とか、既にご指摘いただいたが日本近海のメタンハイドレート資源の調査・採取技術の開発といったものを盛り込んでいただきたい。

- ② 台風18号に関してP14に「最悪の事態は辛うじて回避された」と記述されているが、京都府中北部地域をはじめとして非常に甚大な被害が出ているので、これらを配慮した記載ぶりにしていただきたい。
- ③ プロジェクト骨子に京都府のプロジェクトをもろもろ書き込んでいただいているが、固有の事業名が資料4には記載されていないので、例えば京都イノベーションベルトや丹後王国「食のみやこ」といったものをきちんと記載いただきたい。

【徳島県】

資料3 P22の4段目、「国内外のネットワーク機能の強化による対流促進」の項目の中で、「さらに紀伊水道に面する四国圏との隣接地域においては、海を介した多様なネットワークの形成による四国圏との交流・連携の強化を図る」と記載いただいている。これは提案を反映していただき感謝しているが、「海を介した多様なネットワーク」となるとフェリーによる交流連携強化を連想させる。現在四国4県で四国新幹線の取り組みを積極的に行っているところであり、フェリーによる連携強化も重要だが、太平洋新国土軸をはじめとした関西ひいては西日本全体の新たな対流促進に向けた整備を行っていくためにも、また国土軸のリダンダンシーの確保の点からも、リニア中央新幹線の大阪同時開業と共に、それに接続する四国新幹線などの高速鉄道網の整備も大変重要と考える。西日本との連携といったことも書かれているので、その意味で四国新幹線を含めた高速鉄道網との連携も見据えて高速鉄道網との整備促進といった趣旨も書き加えていただきたい。

【近畿市長会】

- ① 計画名が「近畿」から「関西」になったことで、内容でも「近畿」という言葉が全部消えていることが、少し違和感がある。例えば1-2関西の特徴で「歴史が深く息づく関西」というところがあるが、太古の昔から関西という言い方はしていなかったと思う。「近畿」という文字を単純に消してしまっていて、あまりにも深みがなくなっているような感じがするので、修辭的な部分をみていただけたらと思う。
- ② 先程来出ている新幹線、リニアについて、敦賀より西をどうするのかという部分を関西広域連合の中でも議論していただいております、ここでも具体的に示した方がよいと思うのでそれは議論にならないのかというところが少し引っかかったところです。
- ③ 今後、各市町村に意見照会をかけていただくに際し、各市町村とも地方創生について議論を進めているので、それらの意見もくみ取っていただきたい。

【鳥取県】

隣接地域からの意見を反映していただき感謝している。その上で意見を申し上げたいと思います。資料3 P20の目指す姿に、「日本海・太平洋の2面活用による利点も活かしながら、アジアを中心とした世界のゲートウェイ…」という文言で関西を位置づけているが、日本海側は、災害のリダンダンシーの問題もありまして、高速道路のミッシングリンクの解消、境港の活用、観光面、物流面など、太平洋側だけでなく日本海側にも軸をつくっていくことが今後重要になってくると思われるので、現在の流れというだけでなく10年後に向けてそういう流れをつくっていくという意気込みを示してほしい。

【国土交通省国土政策局】

皆様、大変熱心なご議論をしていただきありがとうございます。個別の事業について議論いただいていますので、本日の議論を踏まえながら、また同時進行で進んでいる他のブロックでの議論も踏まえながら、最終的なとりまとめに向けて検討を深めていきたい。近畿、関西においては、意欲的なプロジェクトを出していただいているが、その中でもイノベーションは大変重要なテーマと思う。全国計画でもイノベーションには大きな力点をおいているが、健康・医療産業をはじめとする様々なイノベーション、既に京阪奈をはじめとする知の拠点も出来ており、それらを大いに活用し、他にはないような画期的なイノベーション、まさに関西の成長エンジンをつくっていくというところに力点を置いていただきたい。あまり議論には出ていないが、関西の重要な地域資源として文化・歴史、文化財がある。国宝の5割・重文6割が関西に集中しているということで、それらを保全するだけでなく大いに活用して地域の活力にしていくこと。これは全国どこでもそうだが、とりわけこれだけ文化財が集中する関西ならではの、文化財の意欲的・徹底的な活用にも力点をおいていただきたい。以上のようなイノベーションや文化財を中心に、冒頭国土交通審議官が申し上げた関西の骨太な圏域構造、今後のインフラ整備も踏まえた人流・物流、そういった骨太な圏域構造を描いていただきたい。

4. その他

■資料6説明（事務局）

【事務局】

本日の協議会を受け、10月から約1ヶ月間にわたって市町村計画提案の募集を実施する。その際、本日審議いただいた資料に基づき、提案募集を受け付ける。11月中旬に第3回有識者会議を開催し、それを受けて12月中旬頃に計画原案の素案を検討する第14回広域地方計画幹事会を開催する。このときは、本日出していただいた意

見、市町村提案の意見、有識者会議の意見を組み入れて反映する。幹事会を受けて1月には第5回広域地方計画協議会を開催し、ここで計画原案を審議していただきたいと考えている。2月にパブリックコメントを実施し、その後各省庁の法定協議を経て、3月下旬には広域地方計画の国土交通大臣決定へと進めて行く予定である。社会資本整備重点計画の策定も当整備局で進めており、広域地方計画との整合を図る必要から、今後の会議については、事務局案であるが合同開催を検討させていただきたいのでご協力をお願いしたい。

以上

終了 14 : 20